

専修大学会計教育100周年・会計学科50周年に寄せて

専修大学長
佐々木 重人

はじめに、本学における会計教育100周年・会計学科50周年を迎えた2018年、一連の記念行事が滞りなく成功裏に進められたことに対し、ご尽力くださった先生方に厚くお礼を申し上げます。この行事は、2020年4月に迫った商学部の神田全面移転に向けての広報的役割も果たし、現役の学生や卒業生ばかりでなく、これから大学に進学して会計学を志そうとしている若者たちにも、専修大学商学部の存在を大いにアピールしたと思っております。

本学での本格的な会計教育は、今から100年前の大正6（1917）年8月に、専修大学専門部に「計理科」が新設されたことに始まりました。その設立にあたっては、当時本学の講師を務められており、「計の理を得んことを攻究する学問」として **Accounting** の訳語を「計理学」とすべきと主張した鹿野清次郎先生が中心的役割を果たしました。新設された計理科の学生募集広報には、「専門の知識を要するや言を俟たず、これ即ち計理士（公認会計士の前身）養成の急務たる所以なり、本学此に見る所あり、英米諸大学の例を参酌し、今回計理科を新設して、此要求に応ぜんとす、計理士たらんと欲する者速に来て本学に学べ」という一文が記されました。また、昭和43（1968）年4月に開設された商学部会計学科の新入生に配布された「学習ガイドブック」で、「会計学科は将来公認会計士、税理士その他実社会において会計並びに税務関係の仕事を担当する会計専門家を養成する目的をもって新設されたものである」ことが示され、学科のレーゾンデートルとして、会計専門職の育成が掲げられました。

今日、以上のような会計学科の設立趣旨に応えるように、毎年多数の公認会計士試験や税理士試験等の合格者が会計学科を中心に誕生していることは、喜ばしい限りです。2020年度以降は、マーケティング学科および「計理専修」の伝統を継ぐ会計学科を両輪とした商学部で、神田キャンパスを大いに盛り上げていこうではありませんか。どうぞよろしくお願いいたします。